

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道34号 <small>おおむら</small> 大村拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局			
起終点 起点：長崎県大村市杭出津一丁目 <small>おおむらしくいでつ</small> 終点：長崎県大村市久原二丁目 <small>おおむらしくばら</small>		延長 3.7km			
事業概要 国道34号大村拡幅は、大村市内における国道34号の交通渋滞の解消・緩和を図るとともに、快適な市街地を形成する都市の骨格としての役割を持つ道路として、県央地域における拠点都市としての健全な発展に寄与する延長3.7kmの道路である。					
H2年度都市計画決定		H3年度事業化			
H9年度用地着手		H11年度工事着手			
全体事業費	約144億円	事業進捗率			
約81%		供用済延長			
2.3km					
計画交通量 38,300～47,300台/日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C <small>(事業全体)</small> 1.8 <small>(残事業)</small> 3.5 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 20/163億円 (事業費：15/149億円) (維持管理費：4.5/15億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 69/293億円 (走行時間短縮便益：62/281億円) (走行経費減少便益：3.9/10億円) (交通事故減少便益：3.1/1.8億円) </td> </tr> </table>	B/C <small>(事業全体)</small> 1.8 <small>(残事業)</small> 3.5	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 20/163億円 (事業費：15/149億円) (維持管理費：4.5/15億円)	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 69/293億円 (走行時間短縮便益：62/281億円) (走行経費減少便益：3.9/10億円) (交通事故減少便益：3.1/1.8億円)	基準年 平成22年
B/C <small>(事業全体)</small> 1.8 <small>(残事業)</small> 3.5	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 20/163億円 (事業費：15/149億円) (維持管理費：4.5/15億円)	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 69/293億円 (走行時間短縮便益：62/281億円) (走行経費減少便益：3.9/10億円) (交通事故減少便益：3.1/1.8億円)			
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施					
交通量変動：B/C=4.1（交通量 +10%） B/C=2.4（交通量 -10%） 事業費変動：B/C=3.2（事業費 +10%） B/C=3.8（事業費 -10%） 事業期間変動：B/C=3.3（事業期間+20%） B/C=3.5（事業期間-20%）					
事業の効果等					
①交通混雑の緩和					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 拡幅による容量拡大に伴う渋滞の緩和 ・ 国立医療センター入口交差点の渋滞解消 （朝ピーク時：供用前710m→供用後0m） （夕ピーク時：供用前600m→供用後0m） ・ 国道34号の損失時間の削減（現況52.1万人時間/年→将来13.3万人時間/年） ・ 事業区間における旅行速度の向上（現況30.0km/h→将来47.5km/h） ・ 事業区間における混雑度の低下（現況2.23→将来0.80） ・ 所要時間の信頼性向上による便益は【約13億円※】 					
②交通安全性の向上					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央帯有無別死傷事故率の低下 （中央帯なし159.0件/億台キロ→中央帯あり146.0件/億台キロ） ・ 国道34号の交通事故件数の削減（16件/年→14件/年） 					
③沿道環境の改善					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央帯及び歩道整備による騒音の低減（昼間70dB→68dB 夜間67dB→65dB） 					
④救急医療活動の支援					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大村市・東彼杵町等から3次医療施設長崎医療センターへの救急搬送の支援 ・ 救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口の拡大（約3分、約4,100人） ・ 救急医療活動のアクセス向上便益は【約6億円※】 					
⑤交通結節機能の強化					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長崎空港への所要時間の短縮・定時性の向上（約5分短縮） ・ 九州新幹線西九州ルートの新設駅へのアクセス性向上 					
⑥ゆとりある生活の支援					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道幅員の拡幅による歩きやすさの向上 ・ 歩道幅員の拡幅や無電柱化等により美しい街並みを創出することによる都市の魅力向上 					
⑦活力ある地域づくりの支援					
<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスアルカディア事業の促進支援 					
※は供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）					

関係する地方公共団体等の意見

大村市の首長をはじめとする議会、トラック協会等で構成される国道34号等大村市内幹線道路整備促進期成会（会長：大村市長）等より早期整備の要望を受けている。（平成22年6月）

県知事の意見：

（事業継続という対応方針（原案）に対し）異存ありません。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

事業区間内の大村市西本町の交通量は増加傾向にあり、依然として高い混雑状況にある。（H21：琴之浦橋で約45,300台/日、混雑度1.43）

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約81%であり、そのうち用地進捗率は約84%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・琴之浦橋橋台のインテグラルアバット工法の採用によるコスト縮減【約1億円】
- ・土捨場変更に伴う増加【約6億円増】
- ・沿道環境対策に伴う増加【約9億円増】
- ・軟弱地盤対策等に伴う増加【約12億円増】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。